

温水プール劣化調査結果（概要）

1 建物概要

名称	小牧市温水プール
地名地番	小牧市大字野口2394番地の3
規模構造	鉄筋コンクリート造・鉄骨造 地下1階・地上2階
敷地面積	9,585.19㎡
建築面積	5,022.408㎡
延床面積	6,659.726㎡
竣工年月	平成3年

2 調査期間

令和3年11月8日から令和4年3月31日

3 経緯

温水プールの点検等については、指定管理者による日常点検、年1回の公共施設保全点検マニュアルに基づく点検、そして平成30年度からは建築基準法の改正に基づく3年に1回の有資格者による定期調査を行いながら不具合箇所の修繕を実施してきました。

しかしながら、令和3年度に実施した、3年に1回の定期調査で、構造部等に関する要是正とされた箇所が平成30年度結果より増加しており、調査の上で補修が必要である旨の指摘がされました。

4 調査概要

現時点での劣化損傷状況を把握するため、事前調査・予備調査を行った上で、現地建物劣化調査を実施しました。

現地建物劣化調査内容としては、目視・触診による調査にて全体の劣化部位の確認を行い、特殊試験調査にて目視等では把握できない劣化状況の確認を行いました。

特殊試験調査において鉄骨部材の板厚調査、柱脚腐食状況調査、鉄筋腐食度調査（ハツリ・中性化）、コンクリート中性化試験については躯体関係の劣化状況確認のため、観打診調査、塗膜引張試験、シール材引張試験については仕上材の劣化状況確認のためにそれぞれ調査を

温水プール劣化調査結果（概要）

実施しました。

各部材毎に調査を実施することで、建物全体の劣化損傷状況の把握に努めました。

5 調査結果

この調査において、施設の劣化状況を公共施設保全点検マニュアルを基に下記のとおりAからEまで5段階での判定を行いました。

建築部分における判定結果

A	4
B	92
C	39
D	77
E	38
合計	250

判定基準

A：健全な状態（劣化がない状態、又は、ほとんどない状態）

B：軽微な劣化がある場合（現状では修繕の必要がない状態）

C：広範囲に劣化し安全上、機能上、不具合の兆しがある場合

D：早急に対応の必要がある

E：早急に対応の必要がある※特に利用者へ直接影響がある可能性の懸念箇所であり、修繕をしなければ営業再開が難しい箇所（最優先にて修繕又は更新が必要である）

6 総合所見

劣化損傷状況を調査した結果、建物全体的に多数の劣化損傷部分が見受けられました。

建築としては、主に鉄骨及び金物部分が著しい腐食や断面欠損が見受けられ、安全上、施設運営上危険な状態であるため、早急な修繕及び更新が必要と考えられます。

機械設備、電気設備としては、大半の設備機器、関連部材が法定耐用年数を超過しており、施設運営しながらの修繕又は更新が必要な状

温水プール劣化調査結果（概要）

況となっています。

今後も安全・安心な施設運営を行う目的を達成するために、安全上、施設運営上危険な部分から順次修繕又は更新が必要です。

7 構造上の影響が大きい重要部位

① シリンダー棟階段H鋼柱の断面欠損

主要構造部材である柱材の断面欠損がみられ、構造耐力上に問題が有る。

② ALC支持鉄骨部材の著しい劣化

外壁のALCが取り付けられている鉄骨材の断面欠損がみられ、外壁支持に問題が有る。

③ シリンダー棟階段鉄骨部材の著しい錆

鉄骨部材の著しい断面欠損が直接は見られないが、今後錆の進展により断面欠損が懸念され、構造体の耐力に問題が生じる。

8 劣化箇所の一部

柱材の断面欠損	ALC 取付金物の腐食	鉄骨部材の腐食
		
スライダー取付部の腐食	窓枠の腐食	支柱脚部の腐食
		